

事業計画書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名 一般社団法人 大空への未来の翼

1 事業種別	行政提案型
※行政提案型 事業テーマ	公共空間(阪急宝塚駅～宝塚南口駅)を活用した、多様な活動がうまれる持続可能なまちづくり
2 事業名	公共空間を活用し、中学生を核に若者たちが宝塚の魅力を発見・発信
3 事業を行おうとした動機・必要性	■事業を行う動機と必要性 宝塚市は、文化芸術のまちとして知られ、3年後には漫画家・手塚治虫の生誕100周年を迎える。一方で、近年は若い世代が、手塚作品に触れる機会が減少している。当団体が2025年9月から実施している中学生向けプロジェクトでは、参加した約10人の生徒の多くが、手塚治虫の名前や記念館の存在は認知しているものの、作品を実際に読んだ経験は乏しい。この状況が続けば、地域の文化資源が次世代に十分に継承されず、宝塚市の文化的価値の発信力低下につながる懸念がある。 本事業では、100周年に向けて、中学生と20代の若者が主体となり、手塚作品の研究や発信、イベントの企画運営に取り組むことで、若い世代の視点を取り入れた新たな宝塚の文化発信を行う。大学の漫画系学部の学生との連携も視野に入れ、多様な主体が関わることで、漫画文化への関心喚起と地域の文化的機運の醸成を図る必要がある。
4 事業を行う目的と期待される効果	■目的は、手塚記念館、たからば、文化創造館、ソリオホール、武庫川河川敷など公共空間を舞台に地域の魅力を次世代に継承。記念館の平和や環境の理念などを中学生や20代の若者が主体となって学び・発信する機会を創出することで、次世代における漫画文化の継承と発展、地域の担い手育成、コミュニティの活性化につなげる ■事業を行う目的と期待される効果 具体的には、中学生と大学生・若手社会人がチームを組み、手塚作品の読解や研究を起点に、展示企画や発表イベント、SNS等を通じた情報発信。若者自らが企画・運営に関わることで、主体的な参加を促す。期待される効果は以下の通り。 ① 手塚治虫生誕100周年に向けた機運醸成 ② 若年層における漫画文化への理解と関心の向上 事業期間中に延べ30人以上の中学生・若者が参加し、手塚作品に触れる機会を創出することで、作品理解の深化と文化的関心の底上げを図る。 ③ 若者による新たな文化発信の創出 SNSやイベントを通じて、若い世代の視点から手塚作品の魅力を発信し、同世代への波及効果を生む。従来のファン層にとどまらない新規層の関心喚起につなげる。 ④ 漫画を通じた世代間交流の促進と地域コミュニティの再構築 中学生、大学生、社会人、地域住民が関わることで、多世代が交流する機会を創出。 ⑤ 継続的な人材育成と文化継承の仕組みづくり 単発のイベントにとどまらず、継続的に若者が参画する仕組みを構築することで、将来的に地域文化を担う人材の育成につなげる。 ■行政的効果 手塚記念館、たからば、文化創造館、ソリオホール、武庫川河川敷などへの関係人口の増加。旧宝塚ホテル跡公園の街びらきなども視野入れ、各点を線へとつなぐ「地域回遊型イベント」で「産官学民の緑化保全」の努力や都市計画の取り組みがアピール可能。

5 申請までの検討経過
・2010年 当法人事務局員は宝塚第一小学校まちづくり協議会で活動を10年。 ・2020年 地域ネットワーク会議で、「地域の魅力再発見」を合言葉に「地域資源」の活用として、宝塚温泉の歴史を学び、地域市民や観光旅館などで、官民協働で「宝塚温泉まつり」を企画する。 ・2021年7月 宝塚温泉まつり実行委員会100人参加者1000人規模の祭りを運営。 ・2021～2023年 温泉まつり実行委員できずなづくり推進事業（行政提案型）採択 ・2025年4月 一般社団法人「大空への未来の翼」発足 ・2025年5月 宝塚市教育委員会から「中学部活動受け皿団体」として認定 ・2025年9月 宝塚市立地域利用施設南口会館の指定管理者として市議会認定 ・2025年9月～2月 プレ部活動を開始。公共施設6か所中学生10人と部活を実施 ・2026年2月 法人内に青年部が「中学部活・未来設計部」を設立。準備開始 ・2026年4月～ 指定管理者として経営・市民対応・ソーシャル事業の運営を学ぶ。 未来設計部は「指導者・事務局・若者・中高生」の役割分担確立
6 事業の内容
「公共空間」で「地域イベント」を展開予定 2026年7月～2027年2月 (1) 宝塚市立手塚治虫記念館で勉強会—手塚治虫のメッセージを学ぶ（手塚記念館） (2) 手塚漫画 中高生輪読会 （たからば、文化創造館、男女参画） (3) フィールドワーク 手塚の暮らした故郷 （御殿山・たからば公園） (4) 生誕100年ビブリオバトル手塚漫画の魅力を語る （南口会館） (5) 評論家漫画研究家 岡田斗司夫オタキング代表 （ソリオホール） (6) 「宝塚を手塚の未来、宝塚の緑へ」講演 （ソリオホール） 流通科学大学経済学部 植松経済学部長講演 (7) Ugan 祭り 11月22日中学生ブース「ガラスの地球」で出店 （武庫川河川敷） (8) 旧宝塚ホテル跡の公開空地で中学生など若者が出店 （南口駅前公開空地） （内容）中学生たちには手塚治虫記念館に通い、「手塚さんの6歳頃のスケッチ」をみて、地元の漫画家さんらと、感想を交換。輪読会を継続します。青年期まで暮らした、御殿山のフィールドワークでは彼が見た風景を体験。ビブリオバトル手塚漫画の魅力を語りあいます。Ugan 祭りでブース出店も考えられます。 大人も参加できるイベントとして、評論家岡田斗司夫氏が手塚漫画の魅力を紐解き、流通科学大学の植松宏之教授には、「ガラスの地球を救え！」「手塚の未来、宝塚の緑へ」（仮）と題し、緑やまちづくりについて講演をお願いします。また、「旧宝塚ホテル跡の公開空地」を活動からイベントを地元住民と新規住民が参加する形式で、この公開空地が「産官民」の対話で生まれた経緯なども新旧住民で共有します。 前提とし「手塚プロダクション」へ意図を伝え、承諾が必要です。著作権などの調整も必要です。記念館宝塚市担当から手塚プロダクションにアポイントは取れております。 将来的には、手塚治虫記念館を中心に、たからば、宝塚文化創造館、ソリオホール、武庫川河川敷、旧宝塚ホテル跡地周辺の新たな緑地空間を結び、宝塚の文化資源と自然資源を市民が再発見する回遊型イベントも視野にあります。
7 市の担当課との事前協議の経過（事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入）
2026年4月10日 市街地整備課 第1回の面談。市民側企画提案打ち合わせ 2026年4月23日 市街地整備課 企画案を提出 2026年4月27日 市街地整備課 第2回の面談 行政提案型申請で合意 2026年4月28日 宝塚市立手塚治虫記念館担当と打ち合わせ
8 実施する安全対策（コンプライアンスも含む危機管理）
・「手塚プロダクション」と企画案や著作権処理等、承諾について5月に面談 ・イベントの際は、行事保険などに加入